農薬飛散を防ぐために

農薬を散布する場合は、
周辺への飛散防止に努めるなど
十分な配慮をしましょう。

農薬使用の回数と量を減らそう

●病害虫や雑草の早期発見に努める。
多発してからでは、1回の防除で十分な効果が期待できない場合があります。

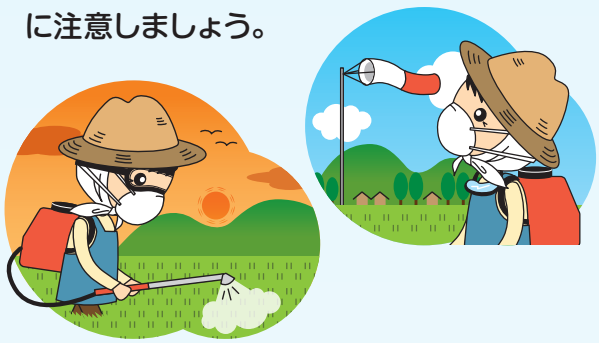
●病害虫の適期防除に努める。
病害虫の発生は年によって異なるので、その年の病害虫の発生状況などを確認して適期防除に努めましょう。

●農薬以外の防除対策にも取り組む。
伝染源にならないように被害作物を適切に処分したり、防虫ネットや抵抗性品種を導入するなど総合的な防除対策に取り組みましょう。

農薬を使用する場合に守るべきこと

●飛散の少ない形状の農薬を選ぶ。
粒剤など飛散の少ない農薬を選択しましょう。

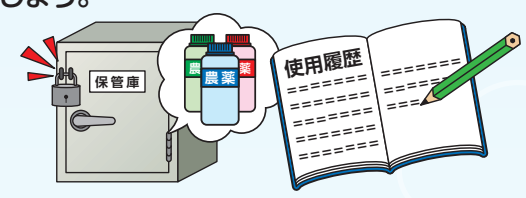
●農薬の飛散防止に最大限の配慮をする。
農薬の散布は、風がないときにおこないましょう。農薬散布中は風向きやノズルの向きに注意しましょう。



●事前に十分な周知をおこなう。
農薬を散布する場合は、事前に周囲の方等へ十分な周知をおこないましょう。

●農薬はラベルに記載された内容に従って使う。
対象の作物に登録のある農薬を、ラベルに記載された内容を守って使用しましょう。

●農薬の使用履歴を記録し保管する。
農薬を使用した年月日や場所、対象作物、使用した農薬の商品名、希釈倍数・10a当たりの使用量等について記帳し保管しましょう。



岡山県植物防疫協会

R7.5月作成